

広島大学附属中・高等学校研究紀要  
〈第47号 2000〉

## 考えて表現することを重視した授業実践

—— いろいろな感情を音で表現する ——

増 井 知世子

音楽についての生徒自身の思いを大切に、音楽について考える力を養うことは、音楽科における重要な目標の一つである。しかしながら実際は知識の伝達や演奏技術の指導に多くの時間を割いており、その目標が十分に達成されていない。本研究は、特に歌唱や器楽などの表現領域における指導をより良いものにしていくという思いから出発したものである。

本授業は、表現領域の一つである創作を、鑑賞領域の学習と絡めて構想した。本稿では、中学校1年生を対象に行った授業実践の報告とその考察を行う。

### 1. は じ め に

歌唱や器楽の学習では、生徒たちの演奏技術に個人差が大きくみられるために、技術習得に多くの時間を費やす。そして練習を積み重ねる一定のレベルの演奏ができるまでに上達する。演奏上の工夫については、指導者が助言を与える場合が多く、生徒自身がこのように演奏したいと考える場合、授業の中であまり提供しえていないように思う。生涯学習の一環の中で音楽科を位置づけて考えるならば、音楽について自分の考えをもつことが前提となり、それから表現活動につながるべきであろう。

一方、中学校1年生における鑑賞領域の目標の一つとして“声や楽器の音色、リズム、旋律、和声を含む音と音とのかかり合い、形式などの働きとそれらによって生み出される楽曲の雰囲気や曲想を感じ取って聴くこと”が、新学習指導要領に掲げられている<sup>1)</sup>。鑑賞はとく受身的な学習になりやすいものであるが、表現領域と同様に、自分の思いを大切に、能動的に聴く態度を養いたいと常々思っている。

本授業は、以上述べたような生徒の表現活動の実践について日頃から感じていたことと、中学校1年生の鑑賞領域の目標とを統合させたものである。具体的には、鑑賞学習のまとめとして、創作活動を行うことにした。創作活動を取り入れようと考えたのは、創作活動においては、生徒の“こう表現したい”という思いをまず存在させてから表現することが容易だからである。以上のように考え、“音楽と感情との関係を探る”という大きなテーマの授業の最後に“いろいろな感情を音で表現する”というテ

マの授業を位置づけて実践した。

### 2. 授 業 の 概 要

対象学年は中1（3クラスとも実施）、実施時間数は17時間である。

第1次（6時間）…ミュージカル「サウンド・オブ・ミュージック」、歌曲「魔王」の鑑賞

音楽は、感情や情景を効果的に表現することができることを知ることをねらいとした。この場合も能動的に鑑賞することを意識し、ミュージカル鑑賞の1時間ごとに、登場人物の気持ちや情景が音楽で効果的に表されていると感じた場面を記述させた。

第2次…夏休みの課題“喜怒哀楽の音楽”

夏休みの課題として、“喜怒哀楽の音楽”というテーマで、各自四つの感情から一つを選び、それにぴったり合うと感じる音楽を探し、2分間録音してくることを課した。（喜と楽は似ているが、この場合、喜はほとぼしするような喜びの感じ、楽はしみじみと安らぐ感じの音楽としてとらえた。）このねらいは、一つは、日常の音楽環境の中で、聴くことに対する意識を高めること、もう一つは課題に取り組むことで多くの曲を聴くことであった。

後掲の資料1の表は、生徒たちが集めてきた曲を喜怒哀楽別に示したものと、課題を通しての生徒の感想をまとめたものである。曲の種類はクラシック、歌謡曲、アニメソング、ゲームの音楽など多様であった。曲数については、喜と楽が多く、怒が最も少なかった。

課題を行うにあたって生徒たちが苦労した点として、たくさんの曲の中から1曲を選ぶことや、1曲

の中に喜怒哀楽のいろいろな感情があるのでどこを録音したらよいか迷ったことなどが挙げられる。中には、日頃ほとんど音楽を聴くことがないために、初めてカセットテープを買ったという生徒もあり、この課題を通して、生徒たちの日常生活での音楽体験の実態を窺い知ることができた。また、課題を通して生徒たちが発見したことは、資料1の記述にあるように、指導者がねらいとしたことを十分に達成するものであった。

**第3次（4時間）**…生徒たちが持ち寄った曲を、喜怒哀楽別に聴く。

2学期に入り、集まった曲を喜怒哀楽別に全員で聴き合い、その音楽に共通してみられる特徴について考えさせた。時間はかかったけれどもこの作業を行った理由は、生徒たちが選んできた曲はほとんど直感によるものであるが、全員でそれを聴き合うことによって得られる共感がどこから生まれてくるのかを、自分たちで考えるところにあった。例えば“喜”の音楽はこういうものだという漠然とした概念を整理し、明確なものにしておくことが、第4次の創作に活かされていくのではないかと考えたのである。具体的には、音楽を構成する様々な要素（リズム、メロディー、ハーモニー、音色、ダイナミックス、形式など）を手がかりにして、各曲の特徴について気づいたことを記述させた。

資料2は、生徒の記述をまとめたものである。細かいところまでよく聴き取っており、“全体的な特徴や気づき”のところに見られるように、音楽についての深い考察を行っているものもある。なおこの表は創作の参考として、生徒に配布した。

**第4次（7時間）**…いろいろな感情を音で表現する。

ねらいは二つである。一つは、自分たちで考えて表現することで、第3次までの学習を深めること、二つめは、グループ活動で個性や音楽に対する考えをぶつけ合うことを通して学びあうことである。

以下に、第4次の創作の授業について詳しく述べたいと思う。

### 3. “いろいろな感情を音で表す”授業の実際と生徒による学習のまとめ

#### (1) 授業の実際

創作の枠組みは次の通りである。

- 喜怒哀楽のうち三つを選んで、その三つの感情が含まれる短い物語をグループで創作する。
- グループの編成は男女4人ずつの8人。
- その話に合う音楽を、1分半～2分の長さで考える。
- 楽譜（音楽の設計図）は図形でもよいし、五線譜

に表してもよい。

- 音楽の一部分に限り、既成の曲を使ってもよい。
- 楽器は、キーボード、サイロフォン、トーンチャイム、カスタネット、すず、リコーダー、ギターなどを使うことができる。声による表現も取り入れてよい。

学習計画は7時間である。

①喜怒哀楽のうち三つが含まれる短い物語を各グループで考え、一つにまとめる。（1時間）

②物語に合う音楽の創作（4時間）

③発表とまとめ（2時間）

①の学習で、各班で物語を決定した後でその物語に合う楽器を決めさせた。一例として、1年A組の各班のあらすじと使用した楽器を記す。

<1班>

物語のテーマ…王様の一日

あらすじ…ひどい政治をした大国に苦しまされる民衆を哀れに思い、小さな国の王様は勝てるはずのない戦いに挑む。そして、なんと民衆の力を借りて勝ってしまう。それからというものの幸せな国になりました。

あらすじの底にある感情の流れ…哀→怒→喜

使用する楽器…木琴、すず、サイロフォン、フルート、トーンチャイム、ヴァイオリン、リコーダー  
<2班>

物語のテーマ…よくばりすぎた犬

あらすじ…肉屋から、肉を盗んで喜んで帰っている犬。でも、川に映った自分の姿を他の犬だと思い、おどかして肉を取ろうとして、ほえた。すると、くわえていた肉が川に落ちてしまっ、悲しみながら帰っていった。

あらすじの底にある感情の流れ…喜→怒→哀

使用する楽器…トーンチャイム、ギター、リコーダー、鉄琴、木琴、ピアノ、チェロ  
<3班>

物語のテーマ…テストの後の1A

あらすじ…テストが終わったその日は喜びでいっぱいの子。でも次の日、テストが返ってくる。すると、みんなの顔から笑みが消える。しばしの反省タイム…？かと思っていたら、ザワザワ。みんなと点数の教え合いをして笑みが戻ってきた。“次がんばればよい”ということらしい。たった5分の間で三つの顔を見せられた。

あらすじの底にある感情の流れ…喜→哀→楽

使用する楽器…ピアノ、トーンチャイム、ソプラノリコーダー、鉄琴、フルート  
<4班>

物語のテーマ…宝くじ

あらすじ…ある日、貧乏な男が道で宝くじを拾う。

家で新聞を見たら3億円が当たっていた。数日後、ワクワクした気持ちで換金へ向かう。しかし、もうその宝くじを換金しに来た人がいて、宝くじは偽物だということがわかった。

あらすじの底にある感情の流れ…喜→楽→哀

使用する楽器…ピアノ、トーンチャイム、木琴、ザイロフォン、リコーダー、ヴィオラ、カスタネット

<5班>

物語のテーマ…続・いなばの白うさぎ

あらすじ…ある日突然、さめに仲間を殺されてしまい、かわいそうないなばの白うさぎ。さめに深い憎しみを感じる、いなばの白うさぎ。敵を討つため、夜な夜な、作戦を練るいなばの白うさぎ。作戦は見事、大成功！さめは、いなばの白うさぎに敵を討たれ、この世の中から消えていった。

あらすじの底にある感情の流れ…哀→怒→喜

使用する楽器…ピアノ、ギター、ヴィオラ、チェロ、ザイロフォン、鉄琴、木琴、キーボード

②の学習では、指導者は各班の進捗状況を把握し、質問や要請に応じる程度で、生徒たちは班長を中心に活動していった。しかし創作活動は生徒たちにとって初めてだったこともあり（ただし附属小出身の生徒たちは何らかの経験がある）、かなり戸惑いがあった。結果として、大部分は既成の曲からのアレンジという形になった。資料3の楽譜は、創作過程で生徒が作成した楽譜である。グループの楽器編成を考えながら、試行錯誤している様子が窺える。

この1年A組の創作の発表は、2000年度の教育研究大会の公開授業で行った。（上記③の学習の第1時にあたる。）各グループとも意欲的に取り組んだ。生徒たちは発表を聴きながら、物語の各場面の音楽について感想をワークシートに記入した。生徒の記述したものも参考に、各班が工夫していたと指導者が感じた点について班ごとに簡単に記す。

1班…哀のフルートの音色とメロディー、怒の大太鼓の音色と音量がそれぞれの感情に適切。

2班…大切なものをなくしてしまった怒りを独奏のピアノが短調で淡々と表現。

3班…トーンチャイムで学校のチャイムそのものを表し、それが場面の変わり目をはっきりと表していた点。

4班…一つの曲にテンポや調を変えて変化をつけていた点。

5班…哀の弦楽器のピチカート、怒の即興的な演奏。

## (2) 生徒による学習のまとめ

一連の授業の締めくくりとして、創作活動に取り組んで感じたこと、考えたことをまとめさせた。生徒の記述したものを、内容別に分類しながら挙げてみる。

生徒Aのものは、創作に関する全般的な感想である。

A…けっこう楽しかったです。初めは「えー！」と思ったし、3分の2ぐらいまではどうすればいいのかわからなくて、だらだらした。でも最後は一生懸命できて満足した。またやってみたいです。

生徒Bのものは、考えて表現するという点についてである。

B…自分たちで音色や曲などを考えて自分たちで演奏するのは難しいけど、楽しいことだと思った。

生徒C、Dのものは、グループ活動の意義についてである。

生徒C…音符もあんまり読めない人でも、たたくところとかをやれるし、うまく、楽器と人をあてはめれたのでよかった。

生徒D…何人かのグループ活動でやると、一人ひとりの考えをさらに深めることができる。また、たのグループの作品を自分の耳で聴くことができ、そのグループの良いところを取り入れられる。

生徒F～Iのものは、創作活動で困難や挫折を感じた点についてである。

生徒F…怒の音楽と哀の音楽を創るのがむずかしかった。

生徒G…班の取り組みは楽しかったが、ピアノを習っている人や管弦楽班の人たちが目立ってしまうので、自分たちで創作ができていないように思えた。

生徒H…哀の音楽は弦楽器中心のものが多かったが、自分たちの班の楽器編成に弦楽器がなかったために、その場面に合った音楽になっていなかったと思う。

生徒I…班のみんなが一人でも欠けるだけで音楽は完成しない。私の班は前日までぜんぜんまとまらなかったのちょっと困った。

生徒J～Lのものは、創作活動を通して音楽について考察したものである。

生徒J…感情と音楽はかなり関係があって、“音楽は口ほどにものを言う”の感じだと思った。

生徒K…リスト、モーツェルト、ベートーヴェンなどの大作曲家たちは本当にすごい力をもっていたんだと思った。

生徒L…CDであらためてその曲を聴いた時、こうやって音を出したのか、とかこの楽器を使ったのか、とかわかっておもしろかった。

生徒M～Oのものは、音楽の表現についてである。

生徒M…同じ曲でもフラット、シャープをつけたり、楽器を変えて演奏するとすごくイメージが変わると思いました。

生徒N…悲しみの曲といっても、何種類もあります。死んだ、フラれた、なくした…だから表現の仕方も様々で、いろいろ考えさせられました。(私の班では、大切なものをなくした悲しみでした。)

生徒O…一人でもきれいだけど、たくさんの人で、いろんな楽器を使うと、違うハーモニーや感じが味わえる。

#### 4. お わ り に

授業を振り返っての問題点および成果は、次のようにまとめることができる。

第1の問題点は、即興や記譜の体験を系統立てて行ってきたわけでもなく、いきなり創作を取り入れたことで、生徒がずいぶんとまどい、既成の曲のアレンジにとどまったものが多かったことである。(曲を自分たちで演奏可能な形にアレンジしたというレベルで考えると、生徒たちは驚くほどの力を発揮したと思う。)生徒の表現したいものを優先させる考えから創作にこだわっていたのであるが、一連の授業を終えて冷静に考えてみると、時間数の制約もあることであるし、既成の曲を選んで、それを物語に合うように工夫をして表現するという課題にしてもよかったかと思う。

また、表現の幅を広げることを意図して、ピアノ線をギターのピックでなでたり、リコーダーの頭部管だけで音を出すなどの、いわゆる創造的音楽学習の中でよく用いられる表現法なども、音による表現法の一つとして創作の導入時に生徒に紹介し、実演して見せたが、創作に反映されることはなかった。

この表現法のことに関しては、教育研究大会で助

言者から、生徒たちはかなり上手に演奏できるのであるし、今回の授業であえてそのような表現法を取り入れる必要はないという指摘があった。このような正規の演奏法から逸脱した表現法は、例えば現代音楽の学習の中に位置づければよいのであろう<sup>2)</sup>。

第2の問題点は、クラスによっては取り組みの工夫をする必要があったことである。公開授業を行った1年A組はグループ活動でもどの班も良く協力し合っていたので、作業が比較的順調に進んだ。しかし、1年生のあるクラスでは男女の協力体制がとれず、作業がなかなか進まなかった。このようなクラスの場合、男女別の少人数にして課題を限定するなどの工夫をすればよかった。

次に、成果についてである。第1の成果は、この一連の授業の目標は概ね達成されたことである。真の意味での創作にはならなかったかもしれないが、夏休みの課題の内容が生徒の興味を惹くものであったことが学習テーマへの意識づけとなり、学習内容が創作によって生徒に定着したとを感じる。

第2の成果は、生徒の記述にもあったように、グループ内での教え合いやグループ間での学び合いが確かに存在し、互いにそれを感じあえたことである。

第3の成果は、副次的なものであるが、自分たちで楽器を選択することで、日常の授業ではなかなか知る機会のなかったクラスメートの特技を知ったり、1年生ではまだ学習していないギターに生徒たちが強い関心をもっていることを指導者も知ったことである。

今後も、生徒の興味・関心を大切にしながら、自分たちで工夫したり考えたりしていくことのできるような場を、できるだけ設定していきたいと思う。

#### 注および参考文献

- 1) 峯岸 創編『新中学校教育課程講座 音楽』ぎょうせい、2000、P.215.
- 2) 浅香 淳編『シリーズ 音楽と教育1 音楽科は何をめざしてきたか』音楽之友社、1996、p.80.  
本来、創造的音楽学習は、イギリスやアメリカにおける、現代前衛音楽を学校教育に取り入れる試みに端を発している。これは、子どもの原初的な音楽行動が、現代前衛音楽の手法に類似する点があったためである。

資料1 夏休みの課題を通しての生徒の感想と曲の一覧

| 苦 労 し た こ と   |  |
|---|--|
| <p>・たくさんの中から1曲を選ぶのが大変だった。・1曲の中に喜怒哀楽のいろいろな感情があるので、どこを録音するか迷った。・自分は音楽をあまり聴かないため、どうしたらよいかわからなかった。・パッと思い浮かんだので苦労なし。初めて好きになったクラシックの一部。・2分間だけだというのが、苦労しました。この曲は、すべての詞に意味がこめられているからです。・カセットテープを買うところ。・録音機材の説明書を読むこと。・録音する時。</p>  |  |
| 発 見 し た こ と   |  |
| <p>・曲を探すことで、いろいろな曲を聴くことができた。・本当に好きな音楽は心が和む。・音楽には作曲者の思いがある。・1曲の中に、いろいろな感情が含まれている。・間奏は、効果的に用いることで、曲の全体のイメージをつくるということがわかった。・クラシックもけっこう聴いてていいし、気持ちがなごむんだなあと思った。・曲を探すことの楽しさ。・テープの使い方がわかった。・いろいろな曲があることがわかった。・クラシックの中でも、「リラックスできる曲」や「元気が出る曲」「淋しそうな曲」など、いろいろな感じの曲があることに気づきました。・「レクイエム」なのに“怒”の曲があったこと。・低い音は、怒っているように感じることが多い。</p> |  |

喜 怒 哀 楽 の 曲

|   |   |
|---|---|
| 喜 | <p>交響曲第2番短調 第4楽章（ボロディン作曲）<br/>         アンパンマンマーチ（やなせたかし作詞）<br/>         夏の王様（歌：kinkikids）<br/>         フラワー（歌：kinkikids）<br/>         ピアノ協奏曲第5番＜皇帝＞第1楽章（ベートーヴェン作曲）<br/>         Butter-Fly（歌：和田光司）<br/>         Eじゃん Do You Feel Like I Feel?（歌：永井真人）<br/>         ミュージックアワー（歌：ポルノグラフィティ）<br/>         晴れたらいいね（歌：ドリームズ カム トゥルー）<br/>         Happy Happy Greeting（歌：kinkikids）<br/>         ラブソディー イン ブルー（ガーシェイン作曲）</p>                 |
|   | <p>交響曲第6番長調＜田園＞第1楽章（ベートーヴェン作曲）<br/>         恋のダンスサイト（歌：モーニング娘）<br/>         動物の謝肉祭より“フィナーレ”（サン＝サーンス作曲）<br/>         花のワルツ（チャイコフスキー作曲）<br/>         BABY PLEASE ME（歌：E-RODIC）<br/>         Rocket man（kinkikids）<br/>         CAN YOU CEREBRATE?（歌：安室奈美恵）<br/>         六つの変奏曲“ネル コル ピュウ”（ベートーヴェン作曲）<br/>         ハープ協奏曲（ヘンデル作曲）<br/>         弦楽セレナードより“ワルツ”（チャイコフスキー作曲）<br/>         剣の舞（ハチャトゥリアン作曲）<br/>         狩りのボルカ（ヨハン・シュトラウス）</p> |

|   |  |
|---|--|
| 怒 | <p>I LOVE HIP HOP (歌：Dragon Ash)</p> <p>革命のエチュード (ショパン作曲)</p> <p>THE NEPENTHES (歌：L'Arc ～ en ～ ciel)</p> <p>ひとりぼっちのE・T (ジョン・ウィリアムズ作曲)</p> <p>ワルキューレ (ワーグナー作曲)</p> <p>レクイエム (ケルビーニ作曲)</p> <p>戦火を交えて～不死身の敵に挑む (すぎやまこういち作曲)</p> <p>組曲「惑星」より“火星・戦争の神” (ホルスト作曲)</p>   |
| 哀 | <p>Winter Fall (L'Arc ～ en ～ ciel)</p> <p>交響曲第5番＜運命＞第1楽章 (ベートーヴェン作曲)</p> <p>My heart will go on (歌：Celine Dion)</p> <p>交響曲第40番ト短調 第1楽章 (モーツァルト作曲)</p> <p>月光の曲 (ベートーヴェン作曲)</p> <p>恋愛旅団 (歌：TUBE)</p> <p>哀しみのとき (すぎやまこういち作曲)</p> <p>TSUNAMI (歌：サザンオールスターズ)</p> <p>アンダンテ・カンタービレ (チャイコフスキー作曲)</p> <p>ハンガリー狂詩曲 (リスト作曲)</p> <p>夏祭り (歌：white berry)</p> <p>虹になりたい (歌：TUBE)</p>                         |
| 楽 | <p>G線上のアリア (バッハ作曲)</p> <p>夜想曲第2番変ホ長調 (ショパン作曲)</p> <p>energy flow (リゲインEB錠 CM曲, 坂本龍一作曲)</p> <p>NEVER END (歌：安室奈美恵)</p> <p>替え歌メドレー (歌：嘉門達夫)</p> <p>あの紙ヒコーキくもり空わって (歌：19)</p> <p>HOWEVER (オルゴールバージョン)</p> <p>ブランデンブルク協奏曲第1番第1楽章 (バッハ作曲)</p> <p>天体の音楽 (ヨーゼフ＝シュトラウス作曲)</p> <p>スワニー河 (フォスター作曲)</p> <p>無伴奏チェロ組曲第1番“プレリュード” (バッハ作曲)</p> <p>There Must Be An Angel (歌：Tina)</p> <p>Blue (歌：ザ・インディゴ)</p> |

# 喜怒哀楽の音楽

|   | 音楽の特徴  |
|---|--|
| 喜 | <p>テンポ…速い。のりやすい。必ずどこかで急激にアップテンポになる。ゆったりしたものもある。</p> <p>リズム…軽快な感じ。はずみがついた曲が多い。スタッカートが多い。アクセントが多い。付点のリズムが多い。リズムの繰り返しが多い。</p> <p>音 高…高め。大半が低音のベースが入っていて、さらに極端に対照的な高い音が少し入っていた。低音に力のあることで高音が目立ち明るくなっている。音の上がり下がり激しい。上がり下がりあまり激しくないものもある。</p> <p>メロディー…繰り返して“喜”を強調している。</p> <p>ハーモニー…長調。</p> <p>音 色…クラシックは弦中心。音が透っていた。シンバル、ドラムなどの軽い音が多い。フルートやハープを使った曲が多い。</p> <p>ダイナミックス（音の強さ）…強弱が激しい。</p> <p>歌 詞…明るい感じの言葉のことが多い。</p> <p>全体的な特徴や気づき…全体的に明るい。踊れるような、盛り上がる曲。サビを盛り上げるために、1回テンションを下げてある。いろいろな“喜”があった。キラキラしたような雰囲気がある。“喜”は一定のリズムがあるから落ち着く。</p>   |
| 怒 | <p>テンポ…速い。スラー気味のところは少し遅めになる。</p> <p>リズム…弦楽器の弓の切り方がすばやい。リズムがこきざみである。音に切れがある。同じリズムが結構、続いている→怒りが収まらない様子。伴奏で低い音がきざむように流れている。</p> <p>音 高…低い。音の上がり下がり激しい。クラシックでは、ドレミファソラシド、のように音が順番に上がっていく。</p> <p>メロディー…同じようなメロディーがくりかえし流れている。</p> <p>ダイナミックス…強い。強弱が激しい。弱い音→強い音（クレッシェンド）。突然大きくなったりする。強いところをひきたたせるために弱い部分をつくっている？</p> <p>ハーモニー…短調。調が変わったりしていた。</p> <p>音 色…太鼓が多く使ってあった。ベース（コントラバス）が目立っている。チューバらしき音が聴き取れる。いろいろな楽器がまざっている。金管が多く使われている。</p> <p>全体的な特徴や気づき…暗い。勢いがある。イライラしてくる。重い音。曲は、にぎやかなタイプと暗いタイプに分かれている。底から湧く感じ。音が太い。歌い方はラップ系。怖い感じ。音が上がったときに、怒りを感じる。歌い方も激しくて、雑。音が低いということは、楽器は大きいのでは？火山が噴火しているよう。波打つような感じで、人を圧倒させる。ゆっくりでも“怒”はあるのだなと意外に思った。</p> |

|   |  |
|---|--|
| 哀 | <p>テンポ…ゆっくり。テンポを途中で一時的に止めるのが不安定感があっていいと思った。</p> <p>リズム…一定。スラーがかかっている。音のはきはきしていない。</p> <p>音 高…ドシラソファミレド…と下りていくのがいかにも“哀”って感じがする。半音が多い。低い音が多い。サビは少し高めの音が多い。低い音と高い音が重なっている。</p> <p>ダイナミックス…静か。クレッシェンドやディクレッシェンドをよく使う。出だしの音は小さい。</p> <p>音 色…クラシックは弦が主体。ひびきがよい。目立つとがった音が少なく、丸まっていた。フラット (b) がついていそうなものが多かった。楽器が和風。打楽器が少ない。ペダルなどでひびかせている。モノトーン。ピアノソロで暗さを強調。素朴な音。かすれるような音。楽器のソロが多い。</p> <p>ハーモニー…すずしい感じ。スラッと通り過ぎてゆくきれいなハーモニー。短調。和音がたくさん入っている。少し合っていない和音が入っているのがよかった。不協和音。</p> <p>全体的な特徴や気づき…演歌だったら哀を感じやすいのではないかと思う。しゅい。ひっそりとした感じ。弱々しい一本の音を振動させるのがさらに“哀”を表現している。</p> <p>心の奥にひびいてくるような曲が多い。(“楽”とは正反対なひびき方。) おごそか。重々しい。甘い。切ない。高い音一つによるさびしいメロディーに低音を重ねている。しめつけられたような気分になる。テンションが低すぎる。しみじみした感じ。ほんやりした感じ。</p>                          |
| 楽 | <p>テンポ…ゆっくりのものとノリのよいものがあつた。なめらかなところとアップテンポなところが、うまく組み合わせてある。</p> <p>リズム…あまりくずさない。ワルツがあつた。(三拍子が多い。) 伸びている音が多い。長い音符と短い音符をだいたい交互に使っている。(付点のリズム)</p> <p>音 高…音が高いのが多い。音の上がり下がりがゆったりしている。</p> <p>ダイナミックス…強い音はあまりない。</p> <p>メロディー…長調と短調が混ざり合つてきれい。</p> <p>音 色…ピアノ、オーケストラの曲が多い。音がやわらかい。オルゴールがあつた。音の伸びやすい楽器が多く使われていた。</p> <p>ハーモニー…長調。余韻が残るものが多い。複雑な音がない。</p> <p>全体的な特徴や気づき…おもしろい曲があつた。楽しいというより優しいという感じだつた。癒し系の音楽が多い。広い大地が見えてくる感じ。歌詞が納得できる。ピアノやバイオリンの音が心にしみた。クリームみたいな音楽。音の波が心地よく感じる。クラシックでも飽きない。何かの式に使うような曲が多い。いろんな楽器を使わずに、少数の楽器でハーモニーをつくるところが、“喜”との違いだと思う。どの曲もリズムに合わせて足を動かしたり体をゆらしたりした。これは、喜だったらたぶんやっていないことなので、喜と楽の差は、ついていけるかいけないかわからないかと思う。クラシックは眠くなるって言う人がいるけれど、心が休まって眠くなるんだと思う。“楽”のリズムは、その時の気分で落ち着けたり、元気になれたり、人によって違うと思う。</p> |



資料3 創作過程で生徒が作成した楽譜

② バスドラム → スネア → 2 作スネアシンスター

シンバル → カスタネット → 2

ドラム → 2

③ ④ 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12

①

② ③ ④ ⑤

⑥

π ~ 果 ~

PAGE 1

Handwritten musical score for a band, featuring staves for Trum., Ps., J-7, K-7, T-7, and Cb. The score is divided into two systems. The first system includes a Trum. staff with a key signature change to C major and a tempo marking of 120. The Ps. staff has a key signature change to C major. The J-7, K-7, and T-7 staves have a key signature change to C major. The Cb. staff has a key signature change to C major. The second system includes a Trum. staff with a key signature change to C major and a tempo marking of 120. The Ps. staff has a key signature change to C major. The J-7, K-7, and T-7 staves have a key signature change to C major. The Cb. staff has a key signature change to C major. The score includes various musical notations such as notes, rests, and dynamic markings.

Trum. *in C*

Ps.

J-7.

K-7.

T-7.

Cb.

Trum. *string.*

Ps. *string.*

J-7. *string.*

K-7. *string.*

T-7. *string.*

Cb. *string.*